



富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ	(85、H10年卒) 高瀬 明子	1
総会での話題提供①「医療を変える挑戦」	(83、H8年卒) 織田 聡	2
総会での話題提供②「PMDAの概要と私の業務について」	(105、H30年卒) 丸茂 勇輝	2
寄稿 研究者として働く	(111、R6年卒) 堀田 朋弥	3
寄稿 5年間の社会人生活を振り返って	(107、R2年卒) 小原 春菜	3
寄稿 シンガポール駐在員の生活：グローバルエリートの挑戦と日常!?	(84、H9年卒) 平岡 良隆	4
寄稿 好きこそものの上手なれ	(78、H3年卒) 坂東 裕志	5
寄稿 お散歩ライフ	(83、H8年卒) 鎌倉 昌博	6
寄稿 忘れ得ぬことども	(57、S45年卒) 中島 和彦	7
寄稿 加齢と健康：70代が余生を決める	(42、S30年卒) 佐藤 哲男	9
寄稿 佐藤哲男博士のメディカルトーク		12
寄稿 Enjoyment health-Enjoy let's Golf-	(47、S35年卒) 小国 益男	12
ゴルフクラブ便り	(56、S44年卒) 金 知出	13
100字通信		13
2024年度 首都圏支部活動報告・支部役員		14
令和6年度会計報告、令和7年度予算(案)		16
令和6年度 支部年会費納入者一覧		17
編集後記		20
令和7年度首都圏支部総会案内		21
令和6年度首都圏支部総会集合写真等		最終ページ



令和6年度富山薬窓会首都圏支部総会の御礼・ 本年もぜひご参加ください

富山薬窓会首都圏支部長（㊞、H10年卒） 高瀬 明子

富山薬窓会首都圏支部会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より支部活動へのご支援ご協力を賜り、ありがとうございます。

この1年の首都圏支部の活動を振り返りますと、ようやく、完全にコロナ禍以前（2020年2月以前）の状況に戻れたことを実感しています。その代表的なものとしては、2024年6月29日（土）開催の令和6年度富山薬窓会首都圏支部総会です。首都圏支部では、パンデミック発生直後の2020年のみ総会開催を見送りましたが、その後、2021年は初の試みであるオンライン開催、2022年と2023年は会場とオンラインのハイブリッド形式での開催、そして2024年は5年ぶりに会場開催を主軸に懇親会も再開し、コロナ禍での経験を活かし総会のみオンライン配信の形式といたしました。富山薬窓会ホームページの首都圏支部のページ及び遠久朶第102号でご報告のとおり、第46回から新社会人の第111回にわたる幅広い年齢層の63名（会場：52名、Web：11名）に参加いただき、無事盛会のうちに終了することができました。正直なところ、コロナ禍を経て個人の価値観も変化がみられる昨今、本格的な会場開催及び懇親会を企画して果たしてどれだけの方が参加くださるのだろうか、当日まで不安でした。ところが、おかげさまでコロナ禍以前の参加者数とほぼ同水準となり、総会の冒頭ではほっとして嬉しい気持ちで支部長ご挨拶をさせていただきました。ここに至るまでには、首都圏支部役員及び会員の皆様の念願であろう懇親会再開に向かって、役員一丸となり毎月1回のZoomによる会議で議論を重ねて来た経緯がございます。また、来賓各位、話題提供のご演者、首都圏支部の皆様の協力なくしては成し遂げられませんでした。心より御礼申し上げます。加えて、私が嬉しく思いましたことを共有させていただきます。富山大学薬学部の先生方のご配慮のおかげで、コロナ禍以降謝恩会の開催が難しくなっても、薬学部・大学院（薬学系）学位記交付式で首都圏支部からご挨拶と共に案内状にて参加を呼び掛ける機会をいただいております。おかげさまで新社会人や若手の方の総会／三金会への参加につながっており、大変有り難く思っております。その中で、首都圏支部は製薬関係の卒業生が多く薬剤師は少ないイメージがある旨を若手の方から伺いました。決してそうではないと実感いただく機会を設定したいと考えていましたところ、今回の総会及び懇親会には薬剤師のご参加も多く、自然と若手薬剤師と交流くださっていました。懇親会参加の皆様がとても楽しそうに交流を深めている姿は、今後もこのような機会を続けて行く原動力となりました。

皆様のおかげで本年は第70号の首都圏遠久朶を発行することができました。長い歴史を築いてこられた先輩方に敬服いたします。ご多用のところ貴重なお時間を割いて寄稿にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございます。新卒者／若手も含め様々な世代からの読み応えある内容となっております。また、総会での話題提供もとても興味深い内容です。ぜひ皆様お問い合わせの上、本年（令和7年度）の総会及び懇親会にご参加ください。薬剤師、製薬関係、行政、アカデミアのみならずあらゆる分野の卒業生がいらっしや、視野が広がることはもちろんのこと、何かの際には必ず誰か頼れる方にたどり着くことができる同窓会ならではの貴重な機会です。

話題提供①

医療を変える挑戦

(㉓、H8年卒) 織田 聡

このたび、首都圏支部総会にて講演の機会をいただきました。私は薬学部を卒業後、医療に関わるさまざまな取り組みを続けてきました。今回の講演では、これまでの歩みと現在携わっているプロジェクトについてお話ししたいと思います。

薬学を志した原点は、父をがんで亡くした経験にあります。西洋医学と補完・伝統医療の狭間を目の当たりにし、その橋渡しとなる仕事がしたいと考えるようになりました。その答えの一つが漢方でした。薬学部卒業後に鍼灸学校へ進み、その後、富山医科薬科大学医学部に再入学。卒業後は和漢診療学講座に入局し、より実践的な経験を積むため成田赤十字病院で内科後期研修を修了しました。さらにアリゾナ大学の統合医療フェローシップに参加し、修了後は統合医療の普及に組み込みました。

しかし、医療に貢献するには政策の枠組みだけでは限界があると感じ、産業の視点から新たなアプローチを模索しながら事業を立ち上げました。鍼灸師向けの電子カルテや3Dバーチャル経絡経穴人形アプリなど、医療分野におけるIT技術の活用を推進し、現在は特に二つのプロジェクトに力を入れています。

一つは、微弱電流を活用したヘルスケアプラットフォーム「Billy's Care System」です。エビデンスの確立に向けた研究を進めながら、新たな選択肢として心身の健康をサポートする可能性を探求しています。もう一つは、がん治療の最前線である「標的アルファ線治療」に用いられるAc-225を、超伝導加速

器を用いて国内生産する事業です。安定供給を実現し、がん治療の未来を切り拓くことを目指しています。

これまでの経験を通じて得た知見や今後の展望について、当日はさらに詳しくお話できればと思います。

話題提供②

PMDAの概要と私の業務について

(㉔、H30年卒) 丸茂 勇輝

この話題提供では、私の勤めるPMDAの概要と自身の業務についてご説明します。まず、PMDAの基本情報として、事業内容、事業計画、業界内での位置づけ等を説明し、現在の動向についても触れたいと思います。次に私の業務内容について詳しくお話しします。所属部署の役割を紹介した後、自身の担当業務について、日々の仕事の流れやどのような課題に取り組んでいるのかを具体的なエピソードを交えてご説明します。また、業務のやりがいや、業務を進める上での難しさについても率直にお伝えし、どのように課題を乗り越えているのかについても共有いたします。さらに、業界全体の今後の展望と自身の業務の役割について考察します。技術革新や市場の変化にどのように対応していくのか、所属部署の役割を中心にお話ししたいと思います。最後の質疑応答では、皆さんと意見交換をしながら、相互理解を深めたり、より具体的な情報を共有する場にできればと考えています。同窓会という貴重な機会を活用し、カジュアルな雰囲気でお話しできれば幸いです。

研究者として働く

(㊦、R 6 年卒) 堀 田 朋 弥

この度は首都圏遠久栄への寄稿の機会をいただきありがとうございます。私は、令和6年3月に修士課程を修了いたしました、堀田朋弥と申します。学生時代は薬物治療学研究室で新田淳美教授、泉尾直孝助教、浅野昂志助教のご指導の下、「双極性障害の新規病態モデル作製」について、研究を行ってまいりました。現在は製薬企業の薬理研究職として創薬研究に携わっています。基本的な仕事内容は学生時代の研究活動と同様で、上司や先輩社員と相談して実験の計画を立て、実験を行って得られたデータを報告して、次の実験計画を立てる、という流れで行っています。学生時代との大きな違いは、事務的な業務が非常に多く、実験に注げる時間に限りがあるということです。1つの実験を実施する際にも、試験計画書や報告書を作成する必要があり、それに加えて、私は研究所の事務用品の発注や試薬の管理を任されています。これらの業務と並行して実験を行うためには、効率的に実施することが求められます。そこで私は、細かいことであっても報連相を欠かさずに行うことを徹底しています。報連相を徹底することで周囲が私の進捗を把握できるため、思いがけないアドバイスが得られることもあります。結果、無駄な遠回りをすることなく実験を進めることができ、効率化につなげることができると考えています。

入社して最初の頃は、職場環境に慣れながら与えられた仕事だけに取り組むことで精一杯で、日々の業務が能動的ではなく受動的になってしまうことが多々ありました。しかし、研究室時代に新田教授がおっしゃられていた「立場の違いはあれども、研究者としては対

等」という言葉を思い出し、「新卒だから」と臆することなく、「1人の研究者」として働く意識を持つようになりました。それからは、実験結果に対するディスカッションでは主体的に自らの意見を発信し、新たな試験計画の提案にも積極的に取り組むようになりました。今後も、学生時代に培った研究活動の経験を活かして、会社内で自分の強みとなる領域を確立させ、1人の創薬研究者として活躍できるよう精進していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

5年間の社会人生活を振り返って

(㊦、R 2 年卒) 小 原 春 菜

皆様、初めまして。この度は本誌への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。107回卒の小原春菜と申します。学生時代は応用薬理学研究室で久米利明教授、安東嗣修准教授、歌大介助教のご指導のもと、アトピー性皮膚炎の痒みに関する研究を行っていました。卒業後は病院薬剤師として働いています。

私は入職後急性期総合病院に配属になり、1年目は調剤監査など薬局での業務を身につけるとともに、緩和ケア病棟と回復期リハビリ病棟で病棟薬剤業務の研修を行いました。2、3年目は産婦人科・小児科病棟の病棟担当薬剤師となりました。添付文書の情報が不足しがちな領域であるため、他の資料や文献で情報を集めながら個々の患者さんの背景も踏まえて判断し、患者さんに薬の情報を伝える大切さを学びました。また、病棟スタッフにも恵まれ、チームで課題に取り組むことができる環境で充実した2年間を過ごすことが

できました。

4年目には同じ法人内のケアミックス型の中小病院に異動になりました。薬剤師が少ない分1人でカバーしなければならない仕事の範囲も広く、周りを見て自分は今何をすべきか考えながら動かなければいけないのは大変ですが、規模が小さいためスタッフ間の距離も近く、他職種の力も借りながら仕事を進める楽しさも分かってきました。

今は地域包括ケア病棟で病棟薬剤師業務をしています。急性期と比較すると入院期間が長いので、患者さん一人一人の背景に目を向けて薬学的ケアをするよう心がけています。在宅復帰を目指す機能の病床であるため、退院後にお世話になる地域の保険薬局との連携も進めています。今年度は退院カンファレンスへ保険薬局薬剤師の方をお招きしたり、薬薬懇談会を開催するなど、今の職場ではこれまで行えていなかったことにも取り組むことができました。

私は、「置かれた場所で花を咲かせる」ことができる存在でありたいと思っています。今後も職場や担当業務は定期的に変わると思いますが、それぞれの場で自分が薬剤師として何ができるか考えながら、仕事を進めていきたいです。

シンガポール駐在員の生活： グローバルエリートの 挑戦と日常!?

(㉔、H9年卒) 平岡良隆

シンガポールの駐在員は、多国籍企業や金融機関で働くエリートプロフェッショナルとしてのイメージが強いです。彼らは高いスキルと経験を持ち、グローバルなビジネス環境

での成功を目指しています。多文化共生の都市であるシンガポールでは、異なる文化や価値観を尊重しながら、異文化コミュニケーション能力を磨いています。住環境も高水準で、家族連れの場合でも安心して暮らせる点が魅力です。生活費は高いものの、教育や医療、交通機関などのインフラが整っているため、高品質な生活を享受することができます。駐在員コミュニティも活発で、ネットワーキングや情報交換の機会が豊富です。

質問：いいですね、この文章にタイトルをつけるとどうなりますか？

「シンガポール駐在員の生活：グローバルエリートの挑戦と日常」

このタイトルなら、内容の要点をしっかりと捉え、興味を引く表現となっています。いかがでしょうか？

以上は寄稿にあたり流行りの生成AIが作成した文章です。

実際に私がこれほど煌びやかな日常を過ごしているのか？という誤解を与える部分も多いので少し訂正しておこうと思います。

一言で駐在員といっても年齢や役割は様々なので、全員がグローバルエリートであるかのように言い切るのは少し問題ですね。ただ、シンガポール拠点でビジネスを行うにあたっては、当該国は人口500万人強という小さな消費者市場しか持たないため東南アジア周辺国と繋がるビジネスチャンスへの対応が求められます。仕事上のコミュニケーションは英語が中心とはなりますが、相手側も英語が母国語ではなく、また各国様々な文化的背景がある中で、いわゆる日本人的な仕事観は全く通用しません。そういう意味で環境に揉まれ必要に迫られた結果、駐在員の能力が磨かれているというのは正しいのかもしれませんが。

生活の質については、国内に第一次／第二

次産業がほとんど存在しないため、基本的には輸入品で消費市場が形成されており、その恩恵として日本製品含めて何不自由なく欲しいものは手に入ります。一方で生活物価は異常に高く、買い物や食事をする際についつい日本円換算してしまうと、さっと満足感が消えうせることも事実です。この物価高を感じる一因にはここ最近の急激な円安相場が強く影響していますので、できる限り円換算しないように心がける事で日々を暮らしています。

最後にやはり駐在員の醍醐味は、新たな出会いにつきます。シンガポール人や周辺国とのつながりもそうですが、シンガポールに在住する日本人は約3万6千人と言われており、日本では出会えないような様々な業種の方々と交流できる機会がたくさんありますので、今後も刺激的な駐在員生活を満喫したいと思っています。

好きこそものの上手なれ

(㊸、H3年卒) 坂 東 裕 志

私は富山生まれ富山育ちで富山医科薬科大学にお世話になったわけだが、昨年5月に東京に来ることとなり、自身3度目の東京生活が始まった。東京に愛されているのか、それとも富山から出ていけとの神様仏様の思し召しか。

結婚をしてから25年超。愛する妻や子供たちと同じ屋根の下での生活を望みながら、なかなかその望みが叶わない。家族が私と同じ思いを抱いているかは別問題として。

そうは言いながら東京生活が嫌いなわけではない。

日本の人口減少が問題となっている今、花

の都大東京だけには人が次から次へと流れてきており、活気にあふれている。コロナ禍が明けて、街中に外国人の姿もかなり増えてきた。仕事をするにも遊びに行くにも都合がよい。

人々を惹きつける様々な施設、イベントが多い。私もここ1年で野球観戦にも行ったし、推しのライブには4回も行った。これは地方都市にいてなかなかできることではない。

また冬の天気がいいこともいい。日本海側の冬の天気が好きな人も一部いると思うが、あの曇天続きには辟易とさせられてしまう。冬の間の曇天続きは、空の色だけでなく人の心も暗くさせるのは気のせいではないと思う。

ただ、である。

私の仕事はほぼ在宅で行うことができる。社内のミーティングもほぼWeb会議である。F2F会議の方が意思疎通が深まるし、連帯感や安心感につながるとは思うが、そんなに大きく効率が変わるわけではない。会いたくない人と直接顔を合わせなくて済むというメリットもあるかもしれない。海外との会議もしばしばあるが、深夜の会議も多いため、自宅での会議出席の方が会議場所の確保も服装にも周りに気を使うことなく都合がよい。在宅でできるということは、東京に住んでいても富山に住んでいてもいいのである。

何より、今の私の生きがいといってもいいゴルフへのアクセスが圧倒的に異なる。

富山にいれば、朝6時起床→ゴルフ→自宅でもまだ午前中ということが起こりうる。

田舎でのゴルフは時間もゴルフ費用も高速代も節約できて、余った時間や費用を家族のために使える。睡眠不足や移動の疲れがなければ、スコアにもつながるし、翌日以降の仕事への影響もない。誠に良いことだらけであ

る。東京はと言えば、車のない私にとっては、ゴルフ場はおろか練習場にすら行くのに難渋する。何より高い！今の自宅から近い〇ッテ練習場でボール1球打つのに30円以上!!!どこのブルジョアジーのお遊びですか?!という感じ。練習すらまなりません。

それが理由かここ一年全く伸び悩み、こっそりシングルハンデを目指していたのにかなり遠くに行ってしまった。センスのない私でも「好きこそものの上手なれ」と思い「シングルさん」の称号に手が届きそうだったのに、「下手の横好き」で終わってしまいそうである。

こう、ぼやいてはみたものの自分で選んできた道。

東京での仕事を頑張るしかないですね。仕事に対して「好きこそものの上手なれ」となるのが一番ですね。

仕事もなかなか大変ですが、家族の支えがあって、今まで頑張ってこられました。

「ありがとう、愛する妻、そして子供たちよ。パパはこれからも頑張るよ。」

残念ながら家族には私の声が届いていないようです。これも下手の横好きということなのか。。。

お散歩ライフ

(㊤、H8年卒) 鎌倉昌博

転勤の関係で数年ぶりに長野県から戻ってきたところ、ちょうど薬窓会のお誘いをいただき、参加し、本寄稿の依頼をいただきました。何を書こうかな、と思いつつ、過去の遠久朶を見返したところ、すっかり忘れていたのですが、薬窓会首都圏若手の会なるものを紹介していたことを発見しました。当時でも

すでに40を数える年代でしたが、自分たちよりも若い世代があまりいなかったので、若手の会としていました。私は転勤の関係もあり、しばらく薬窓会とも距離を置いていたのですが、当時から活動を継続されている方々も多く、皆さんで今の薬窓会を盛り上げ、なにより卒業直後の若い世代も多く参加される環境としていただいていることに拍手を送りたいです。

そんな中で自分を振り返ると、田舎暮らしの影響か、当時から比べておなかが大変なことになっています。これを何とかしようと、都内を練り歩いています。そこで改めて気が付いたのが都内での散歩が楽しいことです。

歩くときには出発地点と歩く方向を大雑把に決めて進んでいます。小さい公園がちょこちょこあり、緑も多いため、結構快適です。ただ、住宅地は迷路のようになり、気が付くと予想していない方向に進んでいることもあるのが難点です。神社や寺院が多いのですが、初めて訪問した際にはその大きさや雰囲気から驚かされることが多々あり、その発見を楽しんでいます。

また、都内には川も多く流れています。特に運河の多くは江戸時代にまでさかのぼり、徳川家康の命により作られた運河も残っているようです。当時は水運が主要な輸送手段であり、物資の流通を効率化するために運河が整備されていましたが、陸上交通の発達とともに現在は主に観光活動として活用されています。そのため、川沿いには遊歩道が設けられていることが多く、公園も点在しています。川沿いは心地よい風や解放感を与えてくれますが、この先の季節の変化も楽しみなところでは。

このようなお散歩ライフを楽しむことで、以前のおなかに戻して、薬窓会を盛り上げる

活動に協力したいところです。

忘れ得ぬことども

(57、S45年卒) 中 島 和 彦

昭和48年に上京し60歳過ぎまで在籍した医家向医薬品企業で研究開発部門、市販後管理部門と幅広い業務に就いた。研究開発部門在籍は長期間に亘り、多様な職種を担った。

若い頃に既上市品の効能追加を担当した。初めて品目責任者となり、一人で新しい適応症取得の可能性について治験で探った。小規模の治験を極く少数の医療機関に依頼し、ある疾患で用量反応性が示唆された。そこで第Ⅱ_b/Ⅲ相試験を大規模で実施することとした。

治験を大規模に全国展開するには、当時は各地区の世話人に影響力のある代表世話人を立てる必要があった。開発、営業の両部門間で熟議した結果、日本医科大学第三内科の常岡健二教授が最も相応しいという結論に達し、支店の同大学担当者及び前任の担当者である彼の上司と共に教授室に伺った。

何とかお引受けいただいたその帰り、この上司の方が「お祝いに飯でも食おうや」と誘ってくださった。その席での言葉である。

「中島、お前もこの先多くの先生方にお会いしそれなりに遇してもらえさるだろう。でもそれはな、うちの会社だからなんだ。お前が本社開発の人間だからなんだ。分るか」

「実は私自身ではなく私に付いている**会社の格と本社開発の者**との二つのラベルで先方は受入判断をしているのだ」と経験の深い先輩が助言してくださったのだ。世事に疎い若い私は世の中の仕組みの一端を知った。

常岡先生は柳田邦男著『ガン回廊の朝』に

お若い頃の活躍振りが描かれている伝説上とも言える方である。さして広くない教授室に再三ご相談に伺い、教室員に懇切に指導される様を幾度も目の当たりにした。同教室員の学会発表の質はどれも高かった。

給料をいただいてこのような立派な先生方に接することができる仕事に携われる有り難さはその後何度も味わった。

55歳を過ぎた頃、業務の傍ら日本製薬工業協会(製薬協)の医薬品評価委員会に携わり始め、やがて委員長の役割を担うようになった。ここでもとても多くの体験をなし得た。

2000年初頭当時、世界で繁用されている医薬品がわが国においては上市が欧米各国に比べかなり遅れている等、優れた医薬品の恩恵を国民が享受できていない現状について「ドラッグ・ラグ」という用語でもって問題提起された(製薬協・医療産業政策研究所)。ドラッグ・ラグの要因は主に、治験期間が長い、承認審査期間が長い、であった。

この課題に対し、医薬品医療機器総合機構(PMDA)の運営評議会において製薬協の青木初夫会長(アステラス会長)は「審査期間を半分に短縮するなら審査手数料は倍額にしてもらってもいい(料金倍額→要員倍増→期間半減)」と切り込んだ。上市が1年早まれば新薬の特許期間中に年商〇億円が余分に確保されることになり十分にペイする。

その頃、内閣府・総合科学技術会議は「円滑な科学技術活動と成果還元に向けた制度・運用上の隘路の解消」に取り組むこととされた。同会議に青木会長は専門委員として参加し見解を述べる。私は評価委委員長として藤原康弘先生(当時、国立がんセンター治験管理室長。現・PMDA理事長)と共に制度改革ワーキング・グループの臨床研究のヒアリングを受け、評価委の臨床評価部会等の各部会の

研究成果をもとに問題点や解決策を述べた。

その後、同WGに関わるアドバイザーである本庶佑議員（当時、京都大学客員教授）から個別にヒアリングを受けた。先生は私の真ん前に座り「企業活動をどうして国が支援しなければならないのか」などとあの怖い顔で詰問するのである。治験環境や承認審査に関わる欧米の諸外国の状況と解決の方向性をもとに国が関わることの必要性を必死に説いた。

同WGの事務局は幸いポジティブな方々で、企業負担の大変さについて各議員の理解を促すために補足資料を用意してはと助言してくださり、その一つとして承認申請資料一式を例示することとした。当時は紙ベースであり、黒表紙・黒紐綴じで腰の高さにも及ぶ。

私の在籍企業では幸いにも私の同期が当時開発薬事担当であり、膨大な資料にマスキングを施し用意することを引き受けてくれ、タイムリーに事務局に提出することができた。

また同WG事務局から「治験を含む臨床研究の総合的推進」の項の正確性チェックを依頼され、市川和孝製薬協理事長と何度も頭を突き合わせて検討し、臨床研究や承認審査の体制整備に関わる同項の提言内容の正確を期した。

できあがった提言書『科学技術の振興及び成果の社会への還元に向けた制度改革について』の記述はその後、制度改革や体制整備に関わる厚労省の様々な検討会やPMDAにおいて指針として都度引用された。国として物事を推進する際の進め方を理解し得た。検討会等と並行して審査管理課やPMDAからヒアリングや情報提供の要請が逐次あり、評価委の各専門部会における日頃の研究成果を開示した。

市販後管理部門に赴いた当初、業界活動に勤しむ者たちが目に付き、多忙な開発部門員

と対比し「許せない」と思ったものだが、前述の体験から業界活動は企業の余裕として心得、許容すべき必要なものと理解し得た。

60歳を過ぎ、PMDAで嘱託職員を募集していることを知り、東海県人会で交流がありPMDAに同様に在籍している⑤鈴木英世さん、⑥牧戸宏行さんにご相談し、鈴木さんからは過去問の提供を戴き受験に際し大いに助かった。

一般薬等審査部に配属され原薬等登録原簿（MF）の審査業務に携わった。MF登録制度は原薬を提供する企業がその製造法のノウハウを提供先に開示しないで済むようにその製造方法を予め登録しておくシステムである。

未分化な時代の開発業務を体験していたお蔭で製造方法はある程度理解できるのが幸いし、程なく職務を遂行できるようになった。その後部外品チームに移り、医薬部外品原料規格（外原規）という公定書の改定業務を担うことになったが、MF審査業務の経験はとても役立った。そのうちに医薬部外品の承認審査も担うこととなり、この外原規改定業務もまた部外品審査業務に役立った。

当初の部長は私が委員長時代に医薬食品局の某課所属で交流があった人だった。人間的に優れた方で、審査員だけでなく予備調査員や庶務チーム員にも絶大な人気があった。配属されて示された「承認審査にあたっての5つの心得」に感心した。詳しくは述べられないが、5つの心得のすべてが、承認審査をする者がややもすると陥りがちな諸点を、申請者の置かれた立場を示しつつ、大所高所より戒める内容となっている。官僚出身でこのような思想を持っている人がいるのかと大変驚くと同時にとても嬉しかった。この方は後に薬系技官の頂点とされる審議官に就いた。

若い審査官たちと共に日夜、二人担当制の審査や簡易相談回答案協議を行なう。外原規

検討委員会当日は、事務局として改定原案の説明や各委員質疑への補足説明など運営円滑化に集中する私に替り審議経過をメモし当日中には纏めを手渡ししてくれた。日々多忙にも拘わらず外原規改定業務を支えてくれる若い審査員たち。PMDAの内側で過ごした日々もまた忘れ難い。

巡り合わせに恵まれたとつくづく思う。

加齢と健康： 70代が余生を決める

(㊤、S30年卒) 佐藤 哲 男

私は2025年で94歳になりました。健康に関しては早期発見、早期治療をモットーにしています。本稿の内容は私がこれまで経験したことに基づいています。読者の皆様に少しでもお役に立てば望外の喜びです。

定期検診は必要か

それぞれの年代で必要な健康管理があります。誰でも知っているのが職場や地方自治体が行っている健康診断や人間ドックです。健康診断を受けるかどうかは本人が決める事で他人が兎や角言う事ではありません。受診して病気が見つかるのが嫌だから受診しない人もいます。私は30年ほど前の現役在職中から毎年人間ドックを受診しています。今年90代になって今更ドックが必要と言われる人もいますが、本人にとっては精神的にそれで満足なのです。重大な病気が無ければそれなりに安心します。もし治療が必要な指示が出たら医師と相談して早期に治療します。私の方針は早期発見、早期治療です。何があっても自己判断するのではなく、専門医の意見を聞くことにしています。

40-60代の健康管理

身体はいろいろな働きを持っています。その中にはどうしても必要なものと、無くとも生きていく上で支障のないものがあります。必要なものは心臓、肝臓、脳、腎臓、膵臓、胃腸など生きるために必須な臓器の働きです。必要のない贅沢品は贅肉、肥満などです。内臓の働きが正常から大きくぶれると病気となって現れます。そのぶれが小さいうちは加齢により修復可能ですが、ある限度を超えると逆戻り出来なくなります。

40-60代は最も体力に余力のあるときですので、酒を飲み過ぎても翌日には回復することができます。しかしそれを繰り返すと将来取り返しのつかないことになります。身体を酷使しないことが肝要です。身体に支障のない一日のアルコール量は、日本酒で一日1-2合、ビールでは大ビン1本、ワインは2日で一本程度だったら大きな問題はありません。しかし晩酌で毎日4合以上の日本酒を飲み続けると、20年-30年後にはアルコール性肝炎から肝硬変になり、さらに進むと最終的には肝臓になることが懸念されます。私はアルコール過敏症ですので全くアルコール飲料を飲みません。採血の時の消毒に使う消毒薬もアルコールではなく他の消毒薬を使っています。

50代後半から60代になったら多くの人々は定年を迎えます。現役の頃は一日の行動がほぼ決まったパターンですが、定年になった翌日からそのリズムが必要無くなります。家庭内の環境により個人差はありますが、好きな時間に起きて、好きなだけ趣味を楽しんで、好きな時間に寝ることも可能です。しかし、定年後も1年くらいは身体は現役時代のリズムを覚えているので、自由な生活を続けると体調に変化を感じます。私の経験では70代をいかに過ごすかがその後の人生を左右するよ

うに感じます。職場には定年がありますが、自分の趣味、活動には定年はありません。

60-70代が最も要注意

実年齢よりも若く見える人でも体力的に本当に若いとは限りません。老化が10-20年遅く進行しているだけかもしれません。誰でも老化はやってきます。若い頃身体を酷使すると、定年後にその影響が表れます。若く見えても実年齢の老化現象は例外なくやってきます。60-70代が最も不安定で死亡率が高いと言われております。中には遅めの超老化現象をみないまま生涯を閉じる人もいます。

私事で恐縮ですが、70代を振り返ってみます。大学の定年の前年64歳の時に国際学会の役員に選出されて、それから70代後半までは1年間に5-6回国際会議のために海外出張でした。元来、海外に好奇心があったことから、国際会議の後、個人的に2-3日その地の有名な場所を訪ねました。私の旅行は思いつきで行き先を決めることが多かった。中でもヨーロッパは歴史的に有名な観光地が多いので退屈しませんでした。ローマでの会議時には、会議終了の翌日、市内の多くの観光地を巡りました。ある時には、ローマからフィレンツェへ行き、美術館を楽しみました。また、フィンランドの首都ヘルシンキでの会議の時は、翌日船でエストニアへ行きました。そんな生活が79歳まで続きました。70代は私にとって人生最大の楽しい日々でした。幸い身体の状態も問題なく、食事でも現地の名物を食し、大きい都市には日本食レストランもありましたので不自由なく過ごしました。私にとって、70代は精神的にも肉体的にも健康貯蓄のできた10年間でした。70代では自分の年齢を意識したことはありませんでした。そんな70代が過ぎて80代に入った途端に、病院にお世話になることが多くなりました。

80代で寿命が決まる

80代前半は70代の体力、気力の健康貯蓄が残っていたおかげで問題なく過ごしましたが、80代半ばになって全身麻酔下で3回も手術を受けました。83歳の時、人生で初めて入院し総胆管結石の手術を受けました。84歳の時には、それまで薬で治療していた前立腺肥大症が進行したので手術を決断しました。3回目の手術は胆嚢摘除でした。3回の手術にもかかわらず幸い体力的には問題なく過ごしました。これは70代で貯めた健康貯蓄のおかげでした。しかし、入院や手術でそれを使い果たしました。70代では定年までの体力や、定年後の運動などで体力を貯蓄する事が出来ますが、80代になると体力が驚く程急激に落ちてそれまで貯蓄していた体力を一気に使い果すので病気がちになります。80代は私にとって正に三途の川を渡るか渡らないかの正念場でした。60、70代で出来るだけ多くの健康貯蓄をお勧めします。

90歳以上になると身体は安定

90代になると体の贅沢品は削り取られて生きるために必要な最低限の必需品だけが残されます。必需品である臓器の働きは老化とともに徐々に消耗されますが、身体全体の統合的働きは低いなりに安定状態を保ちます。私の知り合いで、80代までは人間ドックで異常値が多かったのが、90代になったら基準値以内に納まったというウソの様な話があります。

高齢になったら適当に生きることです。適当といってもいい加減ということではありません。自分のペースで生きることです。高齢になると周囲の人々に遠慮することなく自分の歩幅でほどほどに生きることをお勧めします。また、心身的に環境の変化に順応することが困難になります。その結果、老人は頑固になります。高齢になっても趣味を持ち、友

人、知人と付き合っている人は、脳は若いまま保ち順応性も優れています。また、高齢になったら体力について若い時のように見栄を張らないことです。もし、足腰が不自由で歩くのが苦痛だったら遠慮せずに杖を使うことです。駅の階段を上るのが辛かったら、遠慮せずにエレベーターを使うことです。実際のところ、本人が気にするほど他人は高齢者の行動に関心を持っていません。

脳を若く保つためには

「脳は年齢とともに老化する」と言われていますが、それは必ずしもすべての人に当てはまるとは限りません。年齢を重ねることにより、若い頃に経験したいろいろな事柄が生かされて、単に老化というよりはもっと深みのある人生になります。高齢者でも気持ちが若い人たちは、医療機関でMRI検査をすると、脳においても老化の特徴が少ない傾向にあることが医学的に明らかになっています。

高齢になると、人と会ったとき顔は覚えているが名前がすぐに出てこないことがあります。物忘れには段階があります。「朝食で何を食べたか」の忘れ方は正常の範囲内ですが、「今朝朝食を食べたかどうか覚えていない」は正常を超えた認知機能の低下が考えられます。一般には、50-60代になると、多くの人は少しずつ物忘れが増えてくるのは誰でも感じることで、これは正常の範囲内です。

“前頭葉”を活性化することで物忘れは防げる

脳は多くの機能を持っています。高齢になっても変わらない機能もありますが、一方で、記憶や情報を一時的に保持したり判断したりする力は、加齢とともに衰えやすいのです。このような作業を記憶する部位は頭の額の部位にある前頭野の中の大部分を占める前頭前野です。

「料理をすることは脳を活性化する」とい

われています。料理をしているときの脳の活動を医学的に調べると、前頭前野が刺激されることが知られています。この部位は「脳の司令塔」と呼ばれ、意思や計画性、判断、創造、記憶、集中など、人間の行動の中でも重要な行動を司っています。この部位を刺激して正常に保つためには、他人と会話をすることです。また、「笑う」ことでも前頭前野は活性化されます。40歳を過ぎると記憶力の低下を感じ始めます。それを意識して脳を活性化するのに必要な部位が「前頭葉」です。この部位が衰えると、意欲や創造性が失われ、感情のコントロールがきかなくなり、思考の柔軟性も失われます。

脳の細胞は肝臓、肺などほかの臓器と違って、古い細胞が死んで新しい細胞ができるということはありません。生まれたときの細胞が一生活躍しています。老化すると一部の細胞が機能を失い脳が萎縮します。しかし、脳の細胞は驚くほど巧妙にできており、各部位の細胞が集まって連携しネットワークを作っています。その中の一部の細胞が老化により萎縮すると、ほかの細胞がそれを補う仕組みがあります。

おわりに

私の場合、70代では定年までの体力や、定年後の運動などで体力を貯蓄する事が出来ましたが、80代になると体力が驚く程落ちてそれまで貯蓄していた体力を一気に使い果しました。94歳はどこの集会へ行っても最高齢になり、まれに年上の方と会場でお会いすると、人生の先輩に敬意を表しつつも自分が若くなった気持ちになります。「余生」とは、文字通りに解釈すると“余った人生”という意味です。つまり、人生において、“やるべきことをやってしまって、余った人生”ということなのです。ある人は年金支給が始まる65歳を過ぎれ

ば余生と考えています。また、ある人は仕事を辞めたら余生と考えています。「余生」が何歳から使えるかは歳だけではありません。老人でも生活に追われていれば、生活の糧を得るために、やるべきことをやらなければいけない人もいますから、とても余生と言ってる余裕はないはずです。逆に、定年退職して生活には困らず、ノンビリ暮らしている人の場合は毎日を余生と考えると思います。できるだけ日常生活でストレスを溜めずに、無理をせずにグータラ老人で生活するのが長生きのコツです。

佐藤哲男博士の メディカルトーク

佐藤哲男様は第42回（昭和30年）卒業で、40年にわたり大学で薬学教育や研究に従事されました。その間いろいろな機会に書き貯めていた原稿をまとめ、「メディカルトーク」として2014年12月より毎月1回の頻度でネットに掲載を始められ、2025年3月までに139回連載されています。

佐藤様より掲載の許可を得て、「メディカルトーク」のURLとQRコードを掲示します。目次に139話のタイトルが書かれていますので、興味のある所からお読みください。（㊟、S48年卒）中西

<https://redrb.heteml.net/satohtetsuo/index.html#satoh0>



Enjoyment health -Enjoy let's Golf-

（㊟、S35年卒） 小 国 益 男

豊かな健康への多くは夢を描いて50台から助走せる薬窓仲間の先人達が、支部の支援を得て生まれた富山薬窓会首都圏ゴルフ同好会も53年の道程を経て今年度103回目を迎えた。

同じ学舎で学びし仲間達が、春秋二回、緑の芝生の上でゆったりと遠き富山、奥田、五福の懐かしき情景を思い浮かべながら、心とやかな語らいと充実した健康と歩みで真摯な楽しいプレーで、一日を共に過ごす。

シニア世代をアクティブに楽しく気軽に仲間と一緒に励んでみませんか。新たな自分の発見と健康の為に、お待ちしております。

入会ご希望の方は下記幹事宛でご連絡下されば、ご案内状をお送りいたします。

幹事：㊟金 知出、㊟藤村元就、㊟石井誠司

記2024年10月

ゴルフクラブ便り

〔1〕第102回レポート

ずっと好天気恵まれ続きの「薬窓会コンペ」ですが、今回も超絶好調の快晴でした。2024年5月17日（金）、紫C.C. あやめイーストコースにて9：11スタートしました。

好プレー、珍プレーの連続で、泣き、笑いの絶えない一日でした。成績は次の通りです。優勝：小国益男（㊟、S35年卒）さん、BG賞も合わせての堂々二連覇でした！

2位：伊勢谷篤弘（㊟、S35年卒）さん、ベテランお二人が大活躍！でした。

3位：金 知出（㊟、S44年卒）でした。

若者！しっかりせ！次回まで体調管理を留

意し、再会を期し散会。

〔2〕第103回レポート

台風17号と18号に囲まれ、心配された天気も参加諸氏の不断の心掛けか？快晴に。

2024年10月4日（金）紫C.C. あやめウエストコースにて9：11スタートしました。

今回は宅和知文さん（㉘）に続き、伏木洋司さん（㉙）の初参加もあり、大いに盛り上がりました。何よりも、伏木さんの豪快なショットに哑然としたり、ベテラン組はかつての自分の姿を思い出したり、まるで「五福キャンパス」でのゴルフコンペでした。成績は次の通りです。

優勝：藤本元就（㉗、S45年卒）さん、連続6ホールパープレーの完璧優勝でした！

2位：石井誠司（㉚、S46年卒）さん、3パットの連続でしたが、ハンディに恵まれました。

3位：金 知出（㉞、S44年卒）。

ベスグロは4連続で小国益男（㉜、S35年卒）でした。

今回は、幹事3名が上位独占し、薬窓会らしい「ご苦労さん！コンペ」でした。

2024年12月記

（㉞、S44年卒 幹事 金 知出）

100字通信

㉗、H2年卒 紺谷 徹

週末ランニングを始めてかれこれ7年目。ハーフマラソンを2回ほど経験したのみで、フルマラソンは未踏の領域。今年こそ挑戦すべく、新しいシューズを頻繁に買い替えるのだが、シューズより先にへたる膝や腰などのパーツも取り替えたい今日この頃。

㉗、H22年卒 宅間祐太郎

昨年は初めて重要文化財であり、日本最古のクラシック音楽ホールでもある旧東京音楽学校奏楽堂で演奏する機会を得られました。130年以上前からあるホールなので色々と不便なところもありましたが、生のパイプオルガンを触らせてもらえるなど、大変貴重な体験ができました。

㉚、H元年卒 畠山 伸二

昨夏バイクで金沢帰省後、富山・新潟を抜けて秋田、青森、岩手、宮城で一泊し、福島から茨城へ帰宅。次は北海道と思っていたら、バイクで立ち寄った定食屋で、フェリーで徳島行って愛媛から大分へ渡れると聞き、四国・九州も調査中。休みとれるかな？

㉘、H9年卒 宅和 知文

一昨年より薬窓会ゴルフ同好会に参加させて頂いています。100回を超える歴史ある会にて大大大先輩方とラウンドするたびに私もこの様に元気に年を重ねたいものだとしみじみ思います。同じ趣味、同窓と言うだけで旧知の様に暖かく迎え入れて頂けますので、是非JOINしてください！

㉜、S48年卒 中西 憲幸

昨年からは毎週木曜日、高齢者の健康ボウリングに参加しています。3人一組の12チームが編成され、ハンデ戦で3ゲームの対抗戦です。マイボールとマイシューズを車に積んで出かけ、アベレージ150が目標です。80歳代でも上手な方がおられ、励みになっています。

㊦、H30年卒 丸茂 勇輝
硬式テニスに興味で定期的に大会に出場しており、今年2月の中央区ダブルスの大会では久しぶりに優勝できました。次は大学テニス部の後輩と団体戦に出場することとなり、部の繋がりやの強さを実感しているところです。

㊧、H10年卒 高瀬 明子
2024年11月に、久しぶりに関東在住者を中心とする富山医科薬科大学競技スキー部OB・OG会が開催され、約30名でとても楽しいひとときを過ごしました(@新宿)。ご実家への帰省とあわせて福井からご参加の先輩にもお会いでき、あらためて北陸新幹線の敦賀延伸に感謝。先輩も後輩も昔と変わらぬバイタリティーにとっても刺激を受けました。

㊨、H9年卒 膝附 由香
犬連れキャンプを始めて3年。一通りギアはそろえましたが、新しいものを見るたび欲しくなってしまう。すっかり沼にはまっています。

㊩、S54年卒 道見 茂樹
相変わらず家庭菜園に全力投球です。最近新しい／珍しい野菜を種から育てるのを楽しみにしていて、昨年は、バターナッツかぼちゃ、ポポロという生で食べられるソラマメ、モモノスケというサラダ用カブなどを美味しく食べました。

2024年度 首都圏支部活動報告

- 令和6年度首都圏支部定期総会
令和6年6月29日(土) AP東京八重洲
- 幹事会

令和6年4月より毎月1～2回、オンライン開催

- 令和6年度薬窓会近畿支部総会
令和6年6月9日(日)
- 令和6年度富山・石川合同支部総会
令和6年7月6日(土)
- 令和6年度富山大学薬学部・大学院(薬学系)学位記交付式
令和7年3月25日(火)
- その他
三金会
2～3か月毎に有志で開催
令和6年度関東越嶺会総会
令和6年9月7日(土)
五福会(於:東京富山会館)
第42回 令和6年5月8日(水)
第43回 令和6年11月13日(水)
第44回 令和7年3月5日(水)

総会参加者・年会費納入者推移

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総会参加者(人)	75	—	50	49	61	63
年会費納入者(人)	286	258	245	221	215	222

2024年度 首都圏支部役員

支部長: ㊧、H10年卒 高瀬 明子
副支部長: ㊦、S61年卒 阿部 浩之
㊨、H9年卒 平岡 良隆
幹事長: ㊩、H元年卒 畠山 伸二
副幹事長: ㊦、H2年卒 紺谷 徹

⑨7、H22年卒 宅間 祐太郎
役 員：⑤8、S46年卒 加藤 健二
⑥0、S48年卒 中西 憲幸
⑦7、H2年卒 齋藤 みのり
⑧4、H9年卒 膝附 由香
⑧4、H9年卒 木村 徹
⑧4、H9年卒 宅和 知文
⑧5、H10年卒 川邊 香代
⑩5、H30年卒 丸茂 勇輝
監 事：⑥6、S54年卒 道見 茂樹

令和6年度（2024年度）会計報告
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

Ⅰ. 収 入 の 部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金（普通預金）	2,394,331	2,394,331	
年 会 費	500,000	489,778	
総 会 参 加 費	30,000	283,000	
普 通 預 金 利 息	20	859	
そ の 他 （ 寄 付 ）	0	0	
合 計	2,924,351	3,167,968	

Ⅱ. 支 出 の 部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総 会 費	160,000	492,140	
会 合 費 （ 幹 事 会 等 ）	10,000	21,000	
事 務 通 信 費	10,000	2,700	
同 好 会 補 助 費	40,000	40,000	
会 報 発 行 費	400,000	420,968	
出 張 費	90,000	77,790	
同 窓 会 事 務 局 費	66,000	66,000	
次年度繰越金（普通預金）	2,148,351	2,047,370	
合 計	2,924,351	3,167,968	

令和7年度（2025年度）予算（案）
(令和7年4月1日～令和7年3月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	収 入	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	2,047,370	総 会 費	500,000
年 会 費	500,000	会 合 費 （ 幹 事 会 等 ）	20,000
総 会 参 加 費	300,000	事 務 通 信 費	5,000
普 通 預 金 利 息	20	同 好 会 補 助 費	40,000
		会 報 発 行 費	400,000
		出 張 費	80,000
		同 窓 会 事 務 局 費	66,000
		次年度繰越金(普通預金)	1,736,390
合 計	2,847,390		2,847,390

令和6年度 支部年会費納入者一覧 (合計 222名)

※令和6年4月から令和7年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
39	昭和27	米丸洋子	48	昭和36	船場定信	55	昭和43	石橋嘉夫
41	昭和29	志甫 正	48	昭和36	前田伸子	55	昭和43	井上(飯沼)みどり
41	昭和29	上銘外喜夫	48	昭和36	村杉和子	55	昭和43	梅本美智子
42	昭和30	種谷 豊	48	昭和36	吉田光昭	55	昭和43	太田晴美
42	昭和30	渡邊 静	49	昭和37	小川信吾	55	昭和43	鈴木 隆
43	昭和31	久郷正孝	49	昭和37	加藤昭彦	55	昭和43	滝沢春美
43	昭和31	車田知之	49	昭和37	長谷川信治	55	昭和43	檀原宏文
43	昭和31	作田 充	49	昭和37	林 幸子	55	昭和43	牧野由紀子
44	昭和32	紙谷得子	49	昭和37	廣江光代	55	昭和43	松野 萌
44	昭和32	鈴木芳子	49	昭和37	見義治子	55	昭和43	南 菖子
44	昭和32	高瀬清孝	50	昭和38	井田勝三	55	昭和43	奥村啓輔
45	昭和33	大郷利治	50	昭和38	川田桂子	55	昭和43	山口節子
45	昭和33	佐藤池鶴子	50	昭和38	木原幸弘	56	昭和44	加藤正子
45	昭和33	橋浦十八	50	昭和38	輿水誠子	56	昭和44	金 知出
45	昭和33	福田順子	50	昭和38	定塚紀志子	56	昭和44	酒井(田上)綾子
46	昭和34	齊藤諒三	50	昭和38	高野祐子	56	昭和44	鈴木英世
46	昭和34	結城澄子	50	昭和38	野中美代子	56	昭和44	深澤 宣
47	昭和35	伊勢谷篤弘	50	昭和38	前田一郎	56	昭和44	山本寿美子
47	昭和35	市中滋郎	50	昭和38	宮澤英雄	56	昭和44	山岸悦子
47	昭和35	梅原 弘	51	昭和39	加賀美壯一	56	昭和44	山本 恵
47	昭和35	上村恵子	51	昭和39	島田庄蔵	56	昭和44	横山司甫
47	昭和35	京泉清男	51	昭和39	島田輝子	56	昭和44	加藤正子
47	昭和35	小国益男	51	昭和39	古市郁子	57	昭和45	天笠之珠子
47	昭和35	須藤昌二	52	昭和40	小野澤カツ子	57	昭和45	伊藤要一
47	昭和35	関 誠	52	昭和40	是枝 潤	57	昭和45	北野栄一
47	昭和35	野田久正	53	昭和41	安西慶子	57	昭和45	佐々木由紀子
47	昭和35	古川貞子	53	昭和41	岩崎孝一	57	昭和45	中島和彦
47	昭和35	室生知子	53	昭和41	林 聡	57	昭和45	服部 仁
47	昭和35	橘 眞郎	53	昭和41	曲淵徹雄	57	昭和45	林 昌美
48	昭和36	安宅久弥	53	昭和41	南 法夫	57	昭和45	藤村元成
48	昭和36	油木劭之	53	昭和41	村上則彦	57	昭和45	本田伊都子
48	昭和36	川上 惇	54	昭和42	佐藤和恵	57	昭和45	松林(尾崎)久一
48	昭和36	川上芳子	54	昭和42	庄司孝市	57	昭和45	奥村淳子
48	昭和36	久保一夫	54	昭和42	庄司幸子	57	昭和45	古屋(小野里)典子
48	昭和36	熊木健治	54	昭和42	長谷見蓉子	57	昭和45	米澤伸子
48	昭和36	定留温子	54	昭和42	森川礼子	58	昭和46	石井誠司
48	昭和36	樋口明彦	54	昭和42	竹内美千代	58	昭和46	上田宗央

回	年卒	氏名
58	昭和46	加藤健二
58	昭和46	千田耕平
58	昭和46	穂苅 茂
58	昭和46	松田閑枝
58	昭和46	村田悦郎
59	昭和47	駒田由美子
59	昭和47	白瀧義明
59	昭和47	清水善行
59	昭和47	松本茂外志
60	昭和48	加藤マリ子
60	昭和48	田中加代子
60	昭和48	末木愛子
60	昭和48	鈴木むつ子
60	昭和48	田谷栄子
60	昭和48	中西憲幸
60	昭和48	千田豊子
60	昭和48	中島徳子
61	昭和49	梶谷早苗
61	昭和49	杉林堅次
61	昭和49	富永節子
61	昭和49	中村直隆
61	昭和49	富永英嗣
62	昭和50	西山信右
62	昭和50	萩野洋子
63	昭和51	荒牧すが子
63	昭和51	萩野幸司
63	昭和51	堀尾真理子
63	昭和51	脇坂隆子
64	昭和52	真船英一
65	昭和53	渡辺茂美子
66	昭和54	鹿田史紀
66	昭和54	金子美代子
66	昭和54	草柳淳子
66	昭和54	萩原いく江
66	昭和54	真船恭子
66	昭和54	宮田康子
66	昭和54	川崎英之

回	年卒	氏名
66	昭和54	道見茂樹
67	昭和55	中村康夫
68	昭和56	浅川朋子
68	昭和56	木村須賀子
68	昭和56	笹又理央
69	昭和57	小林真弓
69	昭和57	塚本尋子
69	昭和57	竹内 誠
70	昭和58	浦本博志
70	昭和58	遠藤義之
70	昭和58	茂呂今日子
71	昭和59	黒田豊志
71	昭和59	上田結花里
71	昭和59	永田嘉弘
71	昭和59	大川恵子
72	昭和60	小林 譲
72	昭和60	信濃豊進
72	昭和60	根本 了
72	昭和60	上田(奥田)伊津子
72	昭和60	平松(酒井)雄子
73	昭和61	阿部浩之
75	昭和63	池田 靖
76	平成元	朝倉 渡
76	平成元	小林史明
76	平成元	畠山伸二
77	平成2	増本純也
77	平成2	的場義典
77	平成2	山本善一
77	平成2	紺谷 徹
77	平成2	西山桂子
78	平成3	松本千香
78	平成3	坂東裕志
83	平成8	鐺木淳平
83	平成8	東(葛西)美恵
83	平成8	鎌倉昌博
84	平成9	ガブシ(羽生)明子
84	平成9	遠藤(松村)久美子

回	年卒	氏名
84	平成9	正力(橋場)美香
84	平成9	宅和知文
84	平成9	木村 徹
84	平成9	膝附由香
85	平成10	新井延香
85	平成10	岡田英之
85	平成10	岡 常夫
85	平成10	堀口(高瀬)明子
85	平成10	川邊香代
86	平成11	鈴木智之
86	平成11	戸前昌樹
86	平成11	青野友紀子
86	平成11	前川竜也
86	平成11	鵜飼政志
87	平成12	金本(穴澤)和美
87	平成12	森口博行
87	平成12	森口秀美
88	平成13	内野 章
89	平成14	伏木洋司
90	平成15	山木(上野)陽子
97	平成22	金内裕也
97	平成22	宅間祐太郎
98	平成23	小林聡子
99	平成24	今井亮太
104	平成29	大貫 耀
105	平成30	海老原健
105	平成30	丸茂勇輝
107	令和2	小原春菜
108	令和3	佐藤清史
110	令和5	山崎 航
111	令和6	堀田朋弥
現教員		酒井秀紀
現教員		松谷裕二
富山薬窓会会長		稲田裕彦
旧職員及び大学院修了生		中込和哉
旧職員及び大学院修了生		根本信雄
旧職員及び大学院修了生		竹口紀晃

—首都圏支部年会費振込みのお願い—

皆様からのご賛同を得て、首都圏支部年会費の値上げに踏み切ってた2021年から4年が経ちました。昨年まで年会費納入者が減少の一途を辿っていましたが、2024年度は増加に転じ、前年度より7名多い222名の皆様に年会費を納入頂きました。本当に有難い限りです。一方で、コロナ禍以降、初めて本格的な総会後懇親会を開催し、旧知を温めることができましたが、総会経支出が増加しました。加えて昨今の値上げに伴い会報発行費などの増加もあり、支出超過額は会費変更前の水準に戻っています。

本会ではできるだけ諸経費削減策を講じていますが、収入源は会費以外ではなく、本会運営の継続にはより多くの皆様からの会費納入によるご支援を必要としています。これからも役員一同、首都圏在住薬窓会員の皆様が気軽に集える会の運営に努力する所存ですので、皆様におかれましても、現状ご理解頂き、是非とも首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料（200円）を含めた金額が印刷しており、首都圏支部には丁度2,000円が入金されることとなります。振込手数料はこれまで150円でしたが、コンビニの手数料改定のため200円に変更となりましたので宜しく願いいたします。また、会費納入を銀行振込でも行って頂けるよう、口座情報を下記に記載しましたので、振込用紙による振込みよりもインターネットバンキング経由に慣れている方、年会費の他に寄付頂ける方は、是非ご利用下さい。

会費を振り込んで頂いた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願い申し上げます。

北陸銀行新宿支店

口座名：富山薬窓会首都圏支部

口座番号：普通2552140

✉ メーリングリストへの登録のお願い ✉

今年度も首都圏支部総会は現地開催とWeb形式での配信を予定しています。その際、Web参加を希望される皆様には、事前に登録頂いたメールアドレスに招待メールをお送りし、そこに記載された情報をクリックいただくことで、パソコンやスマートフォンなどから参加いただくこととなります。

この機会にぜひ、事前登録をお願い致します。右にあるQRコードをスキャンすると、富山薬窓会首都圏支部メーリングリスト登録画面になりますので、そこにお名前、メールアドレス、卒業年（又は回）を入力してください。また、下記アドレスからも同じように登録できます。（既に登録いただいている方は再度の登録不要です。登録したかどうかよくわからない方は、重複してもまったく構いませんので、登録をお願い致します。）



<https://forms.gle/NLwy1BmSPUuPMZZ98>

登録いただいたアドレスは薬窓会首都圏支部からの連絡以外に利用せず、個人情報の管理には十分配慮いたします。ご協力を宜しくお願い致します。

－編集後記－

数日前まで寒かったと思えば急に暑くなり、数日後には3月では歴代2位の暑さになると天気予報で言っていました。最近秋が短くなった体感はありませんでしたが、遂に春までなくなろうとしているのかと思うと温暖化の影響をまざまざと感じています。この首都圏遠久祭が発行される頃には何度真夏日を迎えているのだらうと思うと少し恐ろしいです。

さて、この編集後記を書いている3月は日本で6年ぶりにメジャーリーグの開幕戦が開催され、プレシーズンも含めると2週間ほどのお祭り騒ぎでした。プチ自慢になりますが、私も開幕戦2試合目のチケットが幸運にも手に入り、生で大谷選手の第一号ホームランを観ることができました。今年の運がこれで使い果たされていないことを願うばかりです。月末にはプロ野球の開幕戦も控えており、今年こそ私が応援するペイスターズのリーグ優勝を見てみたいです。

野球の話ばかりでは興味のない方には申し訳ないので、別の話題に。お手元に今年度の首都圏遠久祭が届いて皆さん驚かれたかと思いますが、今年度は予算の関係で全面モノクロの印刷になってしまいました。例年の立山と青い日本海の写真、および裏表紙のカラー写真を期待されていた方には申し訳ありません。今後の体制は皆さんの会費の振り込みにかかっていると思いますので、首都圏支部の存続のため、引き続きご支援とご協力のほどよろしくお願い致します。また、どうしてもカラーで写真を観たいという方は後日薬窓会本部のホームページにデジタル版をアップロードさせていただきますので、そちらを閲覧いただければと思います。

（副幹事長 ㊦、H22年卒 宅間祐太郎）

事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

（株）同窓会事務局：info@egaomax.com

電話：0120-10-9870

富山薬窓会首都圏支部幹事長

畠 山：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

2025年度「富山薬窓会首都圏支部総会」のご案内

＊日 時：2025年6月28日（土）14：00～19：00（開場13：45）

場 所：総 会「AP東京八重洲」7階 Q、R室（14：00～17：00）

懇親会「AP東京八重洲」7階 P室（17：00～19：00）

住 所：東京都中央区京橋1-10-7（東京駅八重洲口地下街24番出口）

<https://www.tc-forum.co.jp/ap-yaesu/access/>

開催形式：現地開催（総会のみオンライン配信あり）

会 費：7,000円（懇親会費含む）

卒業後5年目まで（2021年3月～2025年3月卒）：無料

話題提供：1 織田 聡氏（第83回）

『医療を変える挑戦』（医療法人社団聡叡会 あすかクリニック）

2 丸茂 勇輝氏（第105回）

『PMDAの概要と私の業務について』（医薬品医療機器総合機構）

＊ 本案内は下記の富山薬窓会ホームページ内の首都圏支部ページでもお知らせします。

<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/okuda/shibu/syutoken/index.html>

＊ 同期・先輩・後輩の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。





令和6年度首都圏支部総会（令和6年6月29日）



総会後 二次会



三金会（令和6年7月）



三金会（令和6年10月）



三金会（令和6年12月）



ゴルフ同好会（令和6年5月17日）



ゴルフ同好会（令和6年10月4日）